
だもん

冴川明希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

だもん

【Nコード】

N6303E

【作者名】

冴川明希

【あらすじ】

愛らしい越前と、毒される受難の男・手塚。

眠ってしまった越前を起そうとした時に聞こえた寝言に、手塚は大ダメージを喰らってしまう。越前が可愛くて仕方ない手塚の妄想話です。塚リヨ前提・『君が好き』と対のコメディ。

(前書き)

友人サイトに別名で捧げたものです。

彼の放った一言は、吃驚するぐらいのインパクト。

『寝言が示唆する可能性についての考察』なんて脳の中の記憶の箱に、お堅い名前を付けなければ落ち着けない。

ああ早く、その目を開けて、現実を突きつけてくれ。

だもん（君が好き・2）

木造の階段をひとつひとつ、手塚は左手に持った丸い盆に気を取られながら上る。焦茶色をした木製の盆は意外と重い。その上に二つのどら焼きを置いた皿とガラスのコップが行儀良く並ぶ。持ち主が足を運ぶ度にコップの中身の液体は規則的に波打ってガラスの内側をなぞり、麦茶の独特のこげばしい香りが辺りに漂う。

普段家の階段を上る時はさして気にならない段差。階段なのだから段差はあって当然なのだが、当然だからこそ慣れない負荷を与えられると妙に気になった。

手塚は自分の部屋の前で、五分程前に出た部屋の、自ら閉ざした扉にノックをすべきか迷う。結局控え目に扉を打ち、そっと扉を部屋に押し込んで、自らもその空間へ帰還した。扉一枚を開けるのに掛

かった時間は過去最長の筈である。なるべく音を立てない様気を使いなから、部屋の真ん中に出されたローテーブルの横に盆を置く。机の上には微妙に燃れた国語の教科書とノート、その上にはシルバのシャーペンが消しゴムと並んで寝転んでいる。

「えち…ぜん」

遠慮がちに名を呼んだ相手は、十分程前までこの机の前に座り勉強していた。それが手塚がこの部屋を出る頃には、テーブルの直ぐ後ろにあるベッドに乗り上げる様にして、うつ伏せで眠っていた。自主休憩という奴である。当然、その時に手塚は彼を起こそうとした。

『十…分だけ…起こして、ね』

夢現状態のリヨーマが、何度か呼び掛けられてやっとそれだけを口にする。その後引き止める手段も無くコトンと眠りに落ちた。手塚はため息と共に頂垂れ、ベッドサイドの時計を見る。もうすぐ勉強を始めて一時間経つし、休憩を入れるかと思案し席を立った。

そして、今に至る。

(さて…どうしよう)

手塚が起こすのを躊躇うには訳がある。寝起きのリヨーマはすこぶる機嫌が悪い。あの大きな目が半眼状態で、親の仇であるかの様に睨み付けて来るのである。起こせと言われてその通りにしているのに、あんな貌をされるのはどうも納得がいかない。

ちらと見下ろした盆の上の麦茶。

冷蔵庫から出してそのまま、つまり氷を入れていないので放って置けば直ぐに常温になる。彼は生温い麦茶も好きではない。熱いか冷たいかはつきりしている方が彼の好みに合っているらしい。

手塚は決心し、自分より二周りは小さな肩に手を掛け軽く揺すった。

「起きろ、十分経ったぞ」

反応は無い。尚も手塚は諦めなかった。

「おやつにしよう。お前が以前美味いといっていたどら焼きがあるぞ」

手塚が階下に行つて麦茶を淹れていたら、居間にいた彩菜がやつて来て、嬉しそうに盆に載せてくれた。

「これ、前越前君がまた食べたといって言っていたものよ」

「はあ」

「ふたりでお食べなさい」

満面の笑みで言われれば、ありがとうございますと行って受け取るしか無い。いや、手塚も受け取らないつもりはこれっぽちも無かったのだが。昨日の夕方、彩菜に明日リョーマが家へ来ると言っていたが、早速買って来るとは思わなかった。

「う…」

「越前、起きろ」

僅かに覚醒しているのか、身動きと共に何か言おうとしているよう

だった。

「ほら、麦茶が生温くなる前に起きろ。嫌なんだろ？」

「…も」

「も？何だ」

薄っすらと開いた瞳が、睫毛の間から微かに覗く。手塚は今更ながら、リョーマのこういった、寝顔の部類に入る表情が年相応に幼い事に気付かされた。授業中しばしば居眠りをするという噂は聞いていたが、学年もクラスも違えば寝顔を見る事は滅多に無く、新鮮な発見だった。合宿等で寝顔まで硬いねとからかわれる手塚とは大違いの表情だ。

しかし良く考えてみれば手塚とこの少年は二年しか年の差が無いのである。しかも、からかわれたのは今のリョーマと同じ一年の時だ。この寝顔の差は年の差といったものだけで片付けられる問題では無いかもしれない。

何にせよ、目の前の少年があどけなく可愛らしいという事実は揺るぎもしなかったが。

「…………ん」

再び聞こえたりリョーマの寝言にハッと我に返り、手塚は目的を思い出し、声を掛けようとしたその時。

「Damn it……」

手塚は瞠目し、がっくりと肩を落とした。

「…夢、か？」

そう考えるのが妥当だろう。何かの夢を見ていて寝言を呟いているのだ。くそつたれとか、こんちくしょうとか。自他共に認める負けず嫌いだから、彼にとっては日常的な台詞なのだろう。しかしだ。

（よりによつて俺に向かってそんな言葉を言わなくても良いだろう！）

実際は手塚に向かって言っている訳はない。きっとそうだ。そうに違いない。だが言われた手塚的には……自分に向けられた言葉に思えて仕方が無い。損な性分だと手塚は自嘲する。

「全く…どんな夢を見てるんだ、お前は」

断続的に漏れるのは、は明らかに日本人が聞き慣れた言語ではない。英語で何か言っている所を見ると、向こうにいた頃の夢なのだろう。以前家に来た時も今日と同じ様に眠ってしまったが、その時は日本語だった。

未だ手塚と会う前の、彼。そう思い至ると、あまりの子供っぽさに認めたくないのだが、どうにも面白くなかった。

「リヨーマー！」

ゆさゆさと、その細い体をきつめに揺さ振る。それを避ける様にリヨーマはあっちいけ、とでも言う様に腕を払った。

「リヨーマ、起きろ」

ぼうつとした貌で漸く瞼を開けた事に、内心ちよつとした満足を覚える。長めの前髪の間から、濡れた瞳が覗く。微かに動く唇が妙に

赤い気がして、彼の肩を掴んだ指が緊張した。

「や…だも、ん」

もぞもぞと動きながらそう紡いだきり、リヨーマはぱたりと瞳を伏せて寝息を立てている。

『やだもん』

「え…越前？」

紡がれたのは目の前にいる自分の名ではなく、拒絶の言葉。しかしその拒絶自体は全く手塚にダメージを与えることはなかった。衝撃を与えたのは別のものである。

『やだもん』

(だもん……)

リヨーマがそういった言葉遣いをするのを、手塚は初めて聞いた。普段のリヨーマはそんな喋り方をしない。どちらかといえば口が悪い方だし、嫌だという場合でも、「やだ」若しくは「いやッス」だ。

(だもん……!?)

冷静になればなるにつとるほど、さっきのリヨーマのぼんやりとした瞳やら声が手塚を浸食する気がした。

(もしかして昔の越前は …お、落ち着け)

英語での寝言は向こうにいた頃の夢を見ているのだとしたら 今より更にミニマムで愛らしくて生意気加減五割り増し位(だと推察される)のリョーマは、日本語を話す時はだもんを日常的に使っていた のかもしれない。

今の『ツス』は『だもん』が置き換えられたものなのかもしれない。

(置き換え……)

『やだもん』

『行くんだもん』

『寝るんだもん』

『お腹空いたんだもん』

『美味しいんだもん』

何てことは無い、色気の無い台詞ばかりである。

だが思い浮べたりリョーマは、喋る内にどんどん幼くなりながら、手塚の脳内で勝手に動き回る。

(落ち着け …るか!)

仮定だらけの想像である。手塚だって理解している。頭ではわかっているのだが、一度脳内を駆け巡った想像というのか妄想、ちょ

つぴり願望も含まれるかもしれないものは、手塚を大いに混乱させたのだった。

「……頼むから起きてくれ」

情けない声で哀願しても、少年は夢の住人のまま。

その間にも麦茶は常温と接近し続けていたが、その事実気付くのは手塚が必死でリヨーマを起こし、ずれ込んだおやつを始めた時だった。当然リヨーマは、何故もつと早くに起こしてくれなかったのかと文句を言ったが、手塚はその少年の口調に、やっと元に戻った日常のありがたさを噛み締めていた。

この後暫く、手塚はこの衝撃の後遺症を抱える事になる。

F i n .

(後書き)

読んでいただき、ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6303e/>

だもん

2011年10月4日14時27分発行